

TOP NEWS

病院長からのご挨拶

北海道大学病院長 秋田 弘俊

日頃より、北海道大学病院の診療並びに当院の地域医療連携にご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響が色濃い現在、当院では、ウイルス感染症の蔓延を防ぐため、病状が安定している外来患者さんについては、地域のかかりつけ医療機関へのご紹介、当院の受診間隔延長・長期処方・電話診療などに取り組んでおります。新型コロナウイルス感染症蔓延の第3波、第4波と、今後もしばらくの間、影響が続くことが懸念され、予断を許さない状況ですが、それに伴って、患者さんの受診行動の変容も予想されます。これまで以上に一層、地域医療

連携(前方支援、後方支援)を推進し、社会の限られた医療資源で多くの患者さんに高品質で安心安全な医療を継続的に提供し続ける体制をつくっていくことが必要と考えられますので、皆様にはご協力ご尽力の程どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の蔓延期の現在、当院では併せて、外来患者さんのマスク着用、入院患者さんについては原則外出外泊禁止、原則面会禁止(デイルーム・アメニティホールを含む)、講演会等のイベント開催の自粛(院内・院外を問わず)などを行っておりますので、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。



(左から)伊藤千奈美看護師長、佐藤明副センター長、高橋久美子看護部長、秋田弘俊病院長、篠原信雄センター長、樋田泰浩副センター長、大森のぞみ副看護部長

外来診療のご紹介

形成外科は、ケガや腫瘍あるいは生まれつきの疾患などにより身体に生じた欠損や変形を、様々な手術手技や特殊技術を駆使して機能と形態を再建・修復することで、皆様の「生活の質“Quality of Life (QOL)”」の向上を目指す外科系の診療科です。

当科は開設から今年で55年の記念の年を迎えました。形成外科の分野において全国で最も古い歴史を持つトップランナーのひとつとして、北海道の医療にさらなる貢献をしております。

対象疾患

形成外科の治療対象は、熱傷や切り傷・擦り傷・顔面骨折などの外傷、唇顎口蓋裂・頭蓋骨早期癒合症・小耳症・副耳・多指症・合指症などの先天性形態異常、顎変形症、皮膚や皮下組織の腫瘍、傷跡・ケロイド、床ずれや下肢の皮膚潰瘍、でべそ、あざ、そして乳房再建などの術後組織欠損の再建など、多岐にわたります。以下に専門領域ごとに、当科の治療内容と特徴を示します。

腫瘍・再建外科

皮膚腫瘍：皮膚腫瘍は形成外科において最も多く取り扱う疾患です。体表面の疾患ですので、単なる病変部の切除のみならず、その痕跡つまり傷跡や変形を可能な限り目立たせないように最大限配慮し、高いレベルの再建治療の提供に努めています。また悪性腫瘍では、外科的切除とリンパ節の探索による転移の制御、最新の薬剤治療である分子標的薬など、多角的かつ先端の治療を推進しています。

乳房再建：乳がんで失われた乳房を人工乳房(シリコンインプラント)で再建する治療方法も現在では保険適応になっています。当科では乳腺外科と共同で、乳がん術後の乳房再建に対して、なお一層の取り組みをしています。

頭蓋顔面外科

唇裂・口蓋裂：顔面の先天性形態発育不全のうち最も頻度の高い唇裂・口蓋裂の治療には医科・歯科の専門家らによるチーム医療が欠かせません。当科では30年以上にわたりこのチーム医療を推し進めてきており、現在は組織名を「顎顔面



唇顎口蓋裂症例

再診体制

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
再診	午前	○	○	○	—
	午後	—	—	—	—
特殊外来	午前	腫瘍外来(月2回) 山本有平・林 利彦・前田 拓・石川耕資 整容美容外科・乳房再建外来(月1回) 山本有平・舟山恵美 赤ちゃんの頭の形外来(月1回) 大澤昌之	他科再建外来(月1回) 山本有平・林 利彦・前田 拓	唇裂(CL)外来(月2回) 舟山恵美・大澤昌之・岡本 亨	—
	午後	クラニオ外来(月1回) 大澤昌之・中山若樹 (@脳神経外科外来)	—	顎顔面(MF)外来(月2回) 大澤昌之・舟山恵美・石川耕資・歯科担当医 口蓋裂言語(CP)外来(月1回) 舟山恵美・大澤昌之・西澤典子・今井智子 (@耳鼻咽喉科外来) 血管腫外来(月1回) 前田 拓・石川耕資	—



ユニット」とし、医科歯科合同の特殊外来で最善の治療を提供しています。また、唇顎口蓋裂を初回の1回の手術で閉鎖を完了させる「一期手術」に取り組んできており、安定した良好な治療成果を上げています。

頭蓋骨早期癒合症：生まれつき頭蓋骨の発育障害をきたす疾患で、頭蓋骨を拡大・形成する手術が必要な場合があります。当科と脳神経外科による合同外来「クラニオ外来」を設置し、この特殊疾患に対する先端治療を推進しています。また、「赤ちゃんの頭の形外来」を開設し、赤ちゃんの頭の変形についての診断を行っています。この疾患が否定された場合でご希望があれば、オーダーメイドのヘルメットによる矯正治療を提供しています。

創傷、難治性潰瘍

創傷とは、いわゆる「キズ」と呼ばれるものの一般を指します。当科では熱傷や、切り傷、擦り傷等の外傷をはじめとするキズだけではなく、様々な原因でなかなか治らないキズ、すなわち「難治性潰瘍」に対しても、各種の外用剤、創傷被覆材、陰圧閉鎖療法などの新しく開発された創傷治療手段を駆使した専門の治療を行っています。

整容・美容外科

高齢化社会に突入した現代社会においては、「シワ」「シミ」「皮膚のたるみ」を整容することによって心の改善を図り、潤いのある充実した生活を提供することが医療機関における重要な役割のひとつとなっています。当科では2005年に、道内の他の基幹病院に先駆けて「整容・美容外科」を併設し、先端的な美容外科技術の開発や、高齢者のQOLの向上を目指した抗加齢医療を提供しています。

初診体制

火・水・木曜日	事前予約	紹介状
午前	必要	必要

外来診療のご紹介

乳腺外科は、乳房の病気、特に「乳がん」を診療の中心として、2012年4月に外科診療科再編に伴い、新設されました。

乳がんの診療においては診断から治療まで一貫して行い、生活の質（QOL）と心のケアを第一に考慮した診療を心がけています。放射線部、超音波センター、病理部、緩和ケアチーム、地域医療連携福祉センター、臨床遺伝子診療部、口腔ケア連携センター、また、すべての診療科のサポートのもと、手術療法・薬物療法・放射線療法全般にわたり、乳がん診療のガイドラインに沿った世界標準治療を実践しています。

手術療法

マンモグラフィ・乳房超音波・乳房造影 MRI・乳房造影超音波・全身造影 CT・骨シンチグラフィ・針生検により乳がんを正しく診断・評価したのち、手術の計画を立てます。様々な持病を持ち手術リスクが高い場合も、ご協力いただく他科との連携のもと、安全第一に手術を行っております。

薬物療法

外科外来・外来治療センターのご協力のもと、外来通院で行います。乳がんでは内分泌療法・化学療法・分子標的薬（抗HER療法を含む）など、多種多様な薬物が使われます。さらに新規薬剤の承認や、既に使用されている薬剤の適応拡大が毎年のようにあります。常に最新の治療を取り入れながら、患者さんにとって一番良い治療を目指しています。

放射線療法

乳がん術後の温存乳房照射・胸壁照射・リンパ節領域照射や、遠隔転移巣への放射線治療を、放射線治療科のご協力のもと行っております。



遺伝子診療

乳がんの保険診療内で行われる遺伝子診療には、大きく2つあります。

一つ目は、遺伝性乳がんの約半数を占めるBRCA1/2遺伝子単体の検査です。遺伝性乳がんはご本人だけでなくご家族への影響もあり、ご家族も含めた遺伝カウンセリングを臨床遺伝子診療部の遺伝カウンセラーの方をお願いしています。また、オラパリブの薬物療法や予防的乳房切除術・卵巣切除術も適応となるなど、ご本人の治療方針も変わってきます。予防的乳房切除術・卵巣切除術は本年4月から保険適用になり、当院でも体制を整えています。

二つ目は、がん遺伝子パネル検査によるがん組織の多遺伝子検索です。がん組織の数百個の遺伝子の変異を網羅的に調べ、遺伝子変異にあった個別化医療を行う医療です。2019年より保険診療となり、当院でもがん遺伝子診断部のもとで実施しております。こちらも同様に、遺伝性に関わる場合には遺伝カウンセリングの適応となります。

診療体制

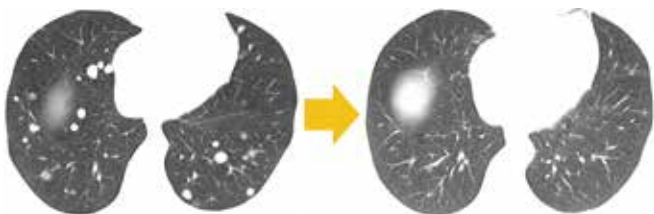
月曜日	火曜日	水曜日
初診外来	初診外来	初診外来
山下 啓子 竹下 卓志 押野 智博 乳腺外科外来	—	山下 啓子 竹下 卓志 萩尾加奈子 押野 智博 乳腺外科外来

外来診療のご紹介

本診療科では放射線治療の一種として、放射性同位元素（アイソトープ）を用いて製造された放射性医薬品を経口もしくは静脈から体内に投与し、薬剤の性質によって目的の部位にのみ放射線をあてることで効果的な治療を行っています。主に甲状腺疾患への治療として行われており、半世紀以上の歴史がある効果・安全性の確立した治療です。また、今後数年でアイソトープを利用する治療法が増え、様々な疾患に利用されていくことが予想されます。患者さんにより優しい治療をモットーに全人的な診療を行って参ります。

甲状腺がんのアイソトープ治療

甲状腺がんに対して、甲状腺全摘術後の再発予防や転移病変の制御を目的に行います。甲状腺がホルモンの材料としてヨウ素を取り込む性質を利用した治療で、アイソトープであるヨウ素-131 (I-131) のカプセルを内服すると、甲状腺の機能が残っている残存病変や甲状腺がんの転移病巣にI-131が取り込まれるため、体に残っている残存病変や転移病巣（リンパ節転移、肺転移、骨転移など）が破壊されます。一般的に大量投与が必要であるため入院して治療を行います。全道から患者さんが紹介・来院され、治療を行っています。治療後は再び紹介元で経過観察・加療をお願いしています。



甲状腺がんの肺転移に対するアイソトープ治療前後の比較

バセドウ病のアイソトープ治療

バセドウ病は、甲状腺のホルモン生成が過剰となり、甲状腺腫大・動悸・手の震え等の様々な症状を示す疾患です。過剰に働いている甲状腺細胞を減少させることを目的にI-131のカプセルを内服します。手術や注射の必要がなく非侵襲的な治療です。さらに甲状腺がん治療に比べて投与量が少なく済み、外来・入院どちらでも治療可能です。治療効果が出るまでに1～2か月かかりますが、確実に効果が期待できます。本邦では抗甲状腺剤での治療が広く行われていますが、重篤な副作用を生じることも少なくなく、アイソトープ治療を受ける方の割合が増えています。



バセドウ病に対するアイソトープ治療前後の比較

前立腺がん骨転移のアイソトープ治療

前立腺がんの罹患数は年々増加しており、また骨転移が多いがんとしても知られています。男性ホルモンを抑える治療に効果が見られない前立腺がんの骨転移にラジウム223 (Ra-223) を用いた治療を行っています。Ra-223はカルシウムと似た性質を持ち、静脈から投与すると盛んに代謝している骨転移に集まり、治療効果の高いアルファ線により、近傍のがん細胞が破壊されます。予後の改善、将来的な骨関連事象の予防、痛みの軽減が得られるうえに骨髄抑制が少なく効果的な治療です。外来で治療を行っています。

アイソトープ治療は、侵襲性の比較的低い治療法ですが、被ばく国の歴史から放射線治療に恐怖心を持つ患者さんも多く、患者さんの目線を心がけて診療や治療の説明（仕組み・副作用・前準備等）を行うために、初診ではゆっくり時間をかけ、看護師さんにも協力してもらいながら説明を行っています。そのため地域医療連携室で予約した時刻よりも遅くなることもありますが、ご容赦ください。皆様のご期待に応えられるように日々精進しておりますので、ぜひご紹介のほど、よろしくお願い申し上げます。

初診・再診体制

水・金曜日	予約	紹介状
午前	必要	原則必要

口臭専門外来のご紹介

口臭専門外来では、歯科診療センター予防歯科の専門医が中心となって、口臭でお悩みの患者さんに対し、口臭の原因を調べて指導および処置を行い、さわやかな息を取り戻していただくよう努力しております。

対象

1. 生理的口臭、口腔由来の原因による病的口臭を有する患者さん
2. 口臭愁訴症(仮性口臭症、自臭症)の患者さん
3. その他、専門家による口臭予防処置を受けた方がよいと思われる患者さん

診療内容

1. 問診

- 1) 生活状態の把握
- 2) 「口臭」に関する患者自身の認知、意識レベルの把握
- 3) 口腔衛生への関心度の把握
- 4) その他

2. 診査

- 1) 歯の診査(歯の状況ならびに歯周ポケット)
- 2) 口臭の測定(官能検査、オーラルクロマなど)(図1～3)
- 3) 唾液の検査(安静時唾液量、性状など)
- 4) 口腔粘膜の検査(粘膜の乾燥度、舌の状況の診査など)
- 5) その他

3. 口臭の処置

- 1) 原因が口腔内にあると診断された患者さんの場合
→口腔清掃指導や口腔粘膜ケアの指導(セルフケア)、
歯石除去など
(必要に応じて)未処置齲歯の処置、歯周病治療、
不適合補綴物の再製作など
歯科診療センター専門医やかかりつけ歯科医に依頼
- 2) 原因が口腔以外の全身的な要因にあると診断された患者さんの場合
→(必要に応じて)内科医、耳鼻咽喉科医への受診を勧めることがあります
- 3) 口臭愁訴症(仮性口臭症、自臭症)の患者さんの場合
→(必要に応じて)心療内科医の受診を勧めることがあります

治療費

基本的に保険診療で行っております。

お問い合わせ

北海道大学病院 歯科診療センター口臭専門外来

電話: 011-706-4342, 011-706-4343

(午前9時～午後5時)

初診体制

診療時間 毎週月～金曜日 午前9時～午後4時

※初診時における口臭検査の検査条件をお伝えする必要があるため、予約が必要です。

※紹介状は必要ありません。



図1 呼気の採取



図2 オーラルクロマ

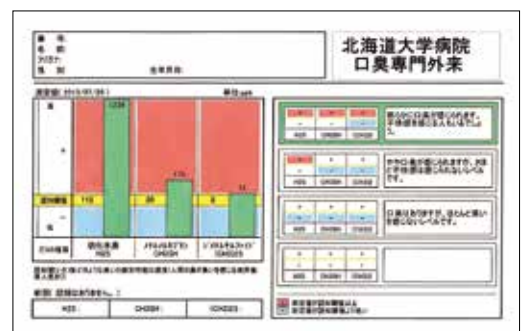


図3 測定結果

薬剤部のご紹介

目標と基本方針

薬剤部は「安心・安全な薬物療法の提供、向上心を持つ薬剤師の育成、医療チームの一員としての役割を担う」を目標とし、患者さんに良質で医療の進歩・社会の要請に応じた、安心・安全な薬物療法の提供を行うことを基本方針として日々の業務にあたっています。

医療の高度化、複雑化やタスクシフトの潮流に乗って病院薬剤師の職能は拡大しており、当院の薬剤部においても基本方針に従い、多様な業務を展開してきました。

業務内容

今ではセントラル業務と呼ばれる内服薬、注射薬の調剤や抗がん剤、高カロリー輸液の無菌調製、医薬品供給、医薬品情報に関わる旧来の業務にとどまらず、1日の半分以上を病棟に常駐する病棟業務、外来化学療法を受ける患者さんとの診察前面談や医師への処方提案、ICT、NST、PCTをはじめとするチーム医療への参画、さらに、医療安全、PET製剤の品質管理、妊娠と薬相談外来など、大学病院ならではの専門性の高い業務を幅広く行っています。

中でも病棟業務は全ての病棟に薬剤師を常駐させることで、「薬のある所に薬剤師あり」という状況を作り出し、よりきめの細かい介入が可能となりました。



持参薬の注意点

以前は患者さんが入院する時にお持ちになる持参薬は、医師、看護師による確認が行われていましたが、今では入退院センター担当薬剤師と病棟薬剤師が連携して、鑑別書作成、入院時初回面談を行ったうえで、実際の服用状況に基づいた処方確認、代替薬の提案などを行っています。持参薬は、本邦において週に1～2日内服する抗リウマチ薬を誤って連日投与してしまったことによる死亡例が発生して以来、適切な管理が求められていますが、患者さん自身からの聞き取りだけでは正確な情報が得られないことがあります。持参薬は患者さんからの情報と併せて、客観的な情報としてお薬手帳や紹介状に書かれている処方薬、服用状況が非常に重要となります。

施設間連携の重要性

処方情報を正確に伝えるためには非常に多くの情報が必要です。薬剤名、用法・用量は言わずもがなですが、規格(〇mg)、休薬中の薬剤、粉碎化指示などは意外と忘れられることがあります。特に、手書きのお薬手帳やフリーコメントで入力される紹介状では、十分な情報が得られないケースも見受けられます。

多くの患者さんが複数の施設から処方を受けており、入退院時の情報伝達について改めて重要性を感じています。



オンライン妊婦健診の開始

産科 外来医長 河口 哲

本稿執筆時には新型コロナウイルス感染第2波が札幌を襲っており、当院もその前線に立ち奮闘中です。本冊子を皆様が手にされる頃には状況が改善していることを願っています。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、当科では国内初となるオンライン妊婦健診を本年3月から開始しました(各種メディアにも紹介されました)。このオンライン妊婦健診は、とにかくにも妊婦さんの外出の機会を減らしたい、つまり新型コロナウイルスに感染する機会を減らしたいという思いから始めたものです。というのも、一例として北大病院には膠原病など自己免疫疾患の妊婦さんが多くいらっしゃり、治療には免疫抑制剤という薬を飲まれている方も多く、そのような方はより感染症に気を付けなければなりません。そのため、そのような方を含め妊婦さんが罹患しないように、また罹患させないように、受診機会を減らしたいと考えました。

北海道は広大なので既存の産婦人科ではカバーできない地域がたくさんあり、遠隔医療を望む妊婦さんが大勢いらっしゃいます。幸い当科には遠隔地診療に取り組んでいた医師がおり、その医師を中心に今回のオンライン妊婦健診が準備・実行されました。具体的に現在行っているオンライン妊婦健診は、テレビ電話を通じて患者様に問診し、画面を見て患者様の様子を伺い、行われた検査結果を確認して診療を医師が行い、今後の方針を決定するという流れです。オンライン妊婦健診で行う検査は胎児心拍モニタリング(妊娠26週以降)・体重測定・血圧測定です。胎児心拍モニタリングの測定機械と血圧計に関しては、当科から郵送にて貸し出しています。もちろん、妊婦健診は毎回ではありませんし、心配だから毎回エコーで確認してほしいという方がいらっしゃれば、通常通り外来に受診していただくことも可能です。

今後も新型コロナウイルス感染リスクがあると判断されれば、オンライン妊婦健診は継続していきます。産科一同は、病院に来なくても安心してマタニティライフを送ることのできるオンライン妊婦健診を提供していきたいと考えています。とはいえ、私たち医師も患者様と直接お会いして診察を行うのが安心であり楽しくもあります。また何の心配もなく外来受診していただき、外来診療できる日を楽しみにしております。



オンライン健診中の医師

「かかりつけ医」相談窓口のご紹介

日頃から地域の医療機関の皆様には大変お世話になっております。

当院では、これまでも前方支援と後方支援を行ってきましたが、後方支援として外来患者の逆紹介を推進することを目的に、2019年10月に「かかりつけ医」相談窓口を設置し、2診療科を対象に相談業務を開始しました。本年5月からは、対象を全診療科(精神科神経科、歯科を除く)に拡大しましたので、「かかりつけ医」相談窓口の概要をご紹介します。

まず、「かかりつけ医」推進にあたり、患者さんの理解と協力が得られるように、全ての診察室や待合室に「患者の皆さまへ」のポスターを掲示、また、デジタルサイネージ等で案内をしています。

相談の対象は、病状が安定している外来患者さんで、予約制とし、看護師2名で対応しています。

相談時には、地域の医療機関へ紹介することで、患者さんがメリットを感じられるよう心掛け、移行することでの不安を可能な限り払拭できるように、一人1時間の相談枠でゆっくりと話を聞くようにしています。

紹介先の選定は、患者さんの希望を最優先にし、次に当院と医療機能連携協定を締結している医療機関を優先し紹介しています。しかし、診療や検査、病状によっては、それ以外の医療機関を紹介させていただくこともあります。

患者さんは、外来診察終了後に相談に来ることが多いため、導線を考慮し、入退院センター(1階)近くの個室で相談対応をしています。

今後も、患者さんが「かかりつけ医」に移行して良かったと思えるように相談業務を努めてまいります。

地域の皆様には、引き続きお世話になります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

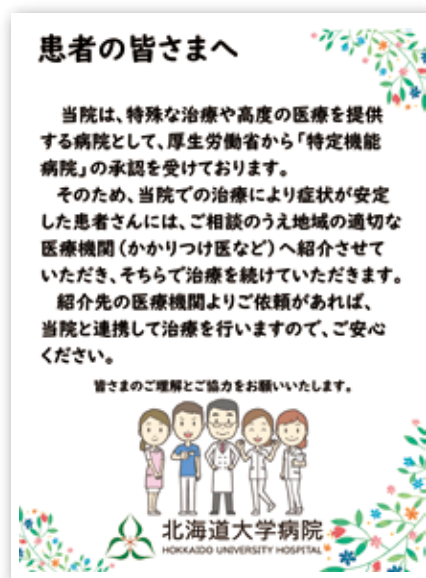
【問い合わせ先】

地域医療連携福祉センター かかりつけ医相談窓口

TEL: 011-706-8527



かかりつけ医相談窓口



ポスター

編集 後記

新型コロナウイルス感染症は世界で猛威を振るい、医療の形を変えています。当院も、日常診療が大きく様変わりしました。新型コロナウイルスの影響で患者さん、関係者の方々には、ご配慮、ご理解をいただきありがとうございます。混乱の真っ只中、当院も情勢を見極めながら感染拡大防止に努めています。今年度もどうぞよろしくお願い致します。(看護師長 伊藤千奈美)

発行 令和2年6月

北海道大学病院

地域医療連携福祉センター

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目

TEL: 011-706-7943 (直通)

FAX: 011-706-7945 (直通)

<http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/>